

平成 24 年度 附属学校研究支援経費による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	白府士孝・北海道教育大学附属特別支援学校
研究期間	平成 24年 7月 ～ 平成 25年 3月
プロジェクトの名称	最新の心理アセスメントに基づいた長所活用型指導の実践 ～ICT教材を用いた新たな特別支援教育の試み～
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	青山真二・札幌校・教授 五十嵐靖夫・函館校・教授 中村洋子・附属特別支援学校・小学部主事 吉野隆宏・附属特別支援学校・中学部主事 ◎白府士孝・附属特別支援学校・小学部教諭 嶋守瞳・附属特別支援学校・小学部主事
成 果 の 概 要	
<p>近年、心理アセスメントの活用については、単なる知能水準の把握に留まらず、教育現場においては特にWISC-ⅢとK-ABCが多く活用され、効果的な指導へとつなぐ有効な手立てとされるようになった。しかし、WISC-ⅢとK-ABCは、WISC-ⅣとKABC-Ⅱとして改訂され、その活用方法についても再考することが迫られている。</p> <p>そこで本プロジェクトでは、最新の心理アセスメントの解釈の仕方とそれに基づいた長所活用型指導の仕方について明らかにすることを目的とした。また、ICTを活用することにより、これまで以上に効果的かつ実践的な支援の在り方を提案した。具体的には、第50回日本特殊教育学会（筑波大学）において、「K-ABCおよびWISC-ⅣとDN-CASの結果を基にした書字指導～ICT教材を用いた長所活用型指導を通して」と題して最新の心理アセスメントに基づいた長所活用型指導の実践研究として発表した。さらに、地域の教育力向上に貢献することを目的として、函館市や北斗市などの渡島近隣市町村の教員を対象とした研修会を実施し、定員を大幅に超える応募があった。今後も、さらに地域の教員のニーズに応えられるように実践に努めていきたい。また、本プロジェクトを通して中期目標における「大学と一体となった附属学校の運営/先導的・実験的な教育研究の実現」に附属特別支援学校として貢献することができたと考える。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
<p>【著書】 無</p> <p>【学術論文】（白府士孝・五十嵐靖夫，K-ABCおよびWISC-ⅣとDN-CASの結果を基にした書字指導～ICT教材を用いた長所活用型指導を通して，日本特殊教育学会第50回大会論文集，2012，P1-H-9）</p>	
教育現場で活用可能な分野等	
特別支援教育分野で、今後の効果的な校内支援体制整備や具体的な学習指導や生徒指導のスキルアップのために現職教員が研修を行う際に利用可能である。	
配付可能な資料の有無	資料あり：冊子体20部
ダウンロード可能なドキュメント	無し
問い合わせ先	責任者：白府士孝 電 話：（0138）46-2515 FAX：（0138）46-2516 Mail：